

# 青森県経済統計報告

平成 28 年 4 月 28 日

企画政策部統計分析課

## 1 青森県の推計人口（平成 28 年 4 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,297,762 人（対前月 6,014 人減少）
自然動態	740 人減少（出生者数 743 人、死亡者数 1,483 人）
社会動態	5,274 人減少（転入者数 3,828 人、転出者数 9,102 人）

## 2 本県の経済動向（平成 28 年 2 月・3 月の経済指標を中心として）

### （1）経済概況

本県経済は、緩やかに持ち直している。  
青森県景気ウォッチャー調査結果によると、北海道新幹線開業による経済効果への期待等から、先行き判断 D I は前期比 0.3 ポイント増加の 51.8 となった。

### （2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 …… 2
  - ・平成 28 年 2 月の**青森県鉱工業生産指数**（平成 22 年=100）は、季節調整済指数が 113.3 で、前月比 9.2%の上昇となり、2 カ月連続で前月を上回った。また、原指数は 102.6 で、前年同月比 6.4%の上昇となり、3 カ月ぶりに前年同月を上回った。
  - ・平成 28 年 3 月の**大口電力使用量**は 2 億 2,498 万 kWh で、前年同月比 0.6%減となり、11 カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-2) 雇用労働 …… 3
  - ・平成 28 年 2 月の**定期給与**は 217,186 円で前年同月比 0.1%減となった。**総実労働時間**は 151.1 時間で前年同月比 0.7%減、**所定外労働時間**は 10.7 時間で前年同月比 7.0%減となった。
  - ・平成 28 年 2 月の**有効求人倍率**（季節調整値）は 1.01 倍で、前月を 0.01 ポイント下回った。
  - ・**雇用保険受給者実人員**は 8,307 人で、前年同月比 9.0%の低下となった。
- (2-3) 物 価 …… 5
  - 平成 28 年 3 月の**青森市消費者物価指数**（平成 22 年=100）は、総合指数が 102.5 となり、前月と同水準、前年同月比 0.5%の下落となった。また、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は 101.3 となり、前月比 0.1%の上昇、前年同月比 1.2%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 …… 6
  - ・平成 28 年 2 月の**百貨店・スーパー販売額**は、全店舗ベースが 128 億円で前年同月比 3.5%増となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比 0.9%増となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。
  - ・平成 28 年 3 月の軽自動車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 6,056 台で、前年同月比 7.2%減となり、7 カ月連続で前年同月を下回った。
  - ・平成 28 年 3 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 568 千人で前年同月比 1.8%増となり、4 カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は 105 千人で前年同月比 0.1%減となり、10 カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-5) 建 設 …… 7
  - ・平成 28 年 2 月の**新設住宅着工戸数**は 397 戸で、前年同月比 62.0%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。
  - ・平成 28 年 3 月の**公共工事請負額**は 69 億 500 万円で前年同月比 22.2%減となった。また、年度累計請負金額は 1,517 億 2,700 万円で前年同期比 10.4%減となり、12 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 …… 8
  - 平成 28 年 3 月の**企業倒産**は、件数は 4 件で前年同月比 33.3%減となった。負債総額は 13 億 6,900 万円で前年同月比 31.4%減となった。

### （3）景気動向指数 C I（平成 28 年 2 月分）…………… 9

先行指数	92.3（前月を 4.4 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した）
一致指数	135.4（前月を 0.8 ポイント下回り、2 カ月ぶりに下降した）
遅行指数	123.1（前月を 0.8 ポイント上回り、3 カ月連続で上昇した）

### （4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 28 年 4 月期）…………… 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断 D I	…45.8（前期比 2.7 ポイント減、3 期連続で 50 を下回る）
3 カ月後の景気の先行き判断 D I	…51.8（前期比 0.3 ポイント増、2 期連続で 50 を上回る）

# 1 青森県の推計人口（平成28年4月1日現在）

## 【概況】

平成28年4月1日現在の本県推計人口は、1,297,762人で、前月に比べ6,014人の減少となった。

### ○自然動態

出生者数が743人、死亡者数が1,483人で、740人の減少となった。

### ○社会動態

転入者数が3,828人、転出者数が9,102人で、5,274人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	自然増減数		社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.4.1	1,310,809	614,893	695,916	-0.461%	-6,077	-724	737	1,461	-5,353	3,806	9,159
27.5.1	1,310,743	615,057	695,686	-0.005%	-66	-593	735	1,328	527	3,458	2,931
27.6.1	1,309,993	614,668	695,325	-0.057%	-750	-661	707	1,368	-89	1,222	1,311
27.7.1	1,309,272	614,260	695,012	-0.055%	-721	-607	750	1,357	-114	1,257	1,371
27.8.1	1,308,552	614,004	694,548	-0.055%	-720	-620	724	1,344	-100	1,695	1,795
27.9.1	1,307,723	613,658	694,065	-0.063%	-829	-669	713	1,382	-160	1,670	1,830
27.10.1	1,308,649	614,608	694,041	-	-693	-592	736	1,328	-101	1,521	1,622
27.11.1	1,307,847	614,210	693,637	-0.061%	-802	-774	707	1,481	-28	1,447	1,475
27.12.1	1,307,015	613,840	693,175	-0.064%	-832	-758	745	1,503	-74	1,057	1,131
28.1.1	1,306,105	613,420	692,685	-0.070%	-910	-782	724	1,506	-128	1,052	1,180
28.2.1	1,304,977	612,833	692,144	-0.086%	-1,128	-889	777	1,666	-239	912	1,151
28.3.1	1,303,776	612,287	691,489	-0.092%	-1,201	-881	662	1,543	-320	1,088	1,408
28.4.1	1,297,762	609,149	688,613	-0.461%	-6,014	-740	743	1,483	-5,274	3,828	9,102

3月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平18.3	19.3	20.3	21.3	22.3	23.3	24.3	25.3	26.3	27.3	28.3
自然動態	出生者数	925	831	844	814	847	797	742	704	745	737	743
	死亡者数	1,318	1,296	1,327	1,327	1,447	1,579	1,498	1,501	1,475	1,461	1,483
	自然増減数	-393	-465	-483	-513	-600	-782	-756	-797	-730	-724	-740
社会動態	県外からの転入者数	4,191	3,722	4,045	4,158	4,069	2,887	3,822	3,440	3,923	3,806	3,828
	県外への転出者数	9,790	9,987	9,894	9,211	8,558	5,920	8,691	9,110	9,050	9,159	9,102
	社会増減数	-5,599	-6,265	-5,849	-5,053	-4,489	-3,033	-4,869	-5,670	-5,127	-5,353	-5,274
増減数計		-5,992	-6,730	-6,332	-5,566	-5,089	-3,815	-5,625	-6,467	-5,857	-6,077	-6,014

- ※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年は国勢調査人口（確定値）。
- ※2 平成22年11月1日から平成27年9月1日までの人口は平成22年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。
- ※3 平成27年10月1日現在の人口は、平成27年国勢調査人口速報集計結果（総務省統計局 平成28年2月26日）を用いているため、9月1日現在の推計人口に9月中の増減数を加えた数値とは一致しない。
- ※4 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口速報集計結果（総務省統計局 平成28年2月26日）を基礎に推計している。
- ※5 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。
- ※6 算出方法  
 県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

#### (2-1) 生産動向

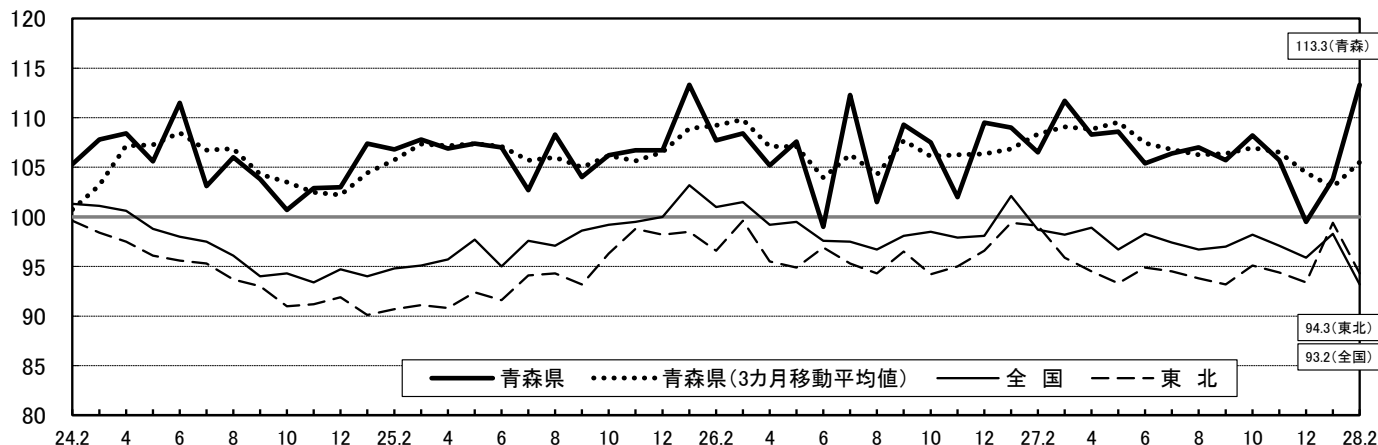
##### (2-1-1) 製造業の生産

平成28年2月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が113.3で、前月比9.2%の上昇となり、2カ月連続で前月を上回った。また、原指数は102.6で、前年同月比6.4%の上昇となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、化学工業、食料品工業、生産用機械工業などが上昇に寄与した一方、鉄鋼業、輸送機械工業、石油・石炭製品工業などが低下し、鉱工業全体では9.2%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成22年=100)

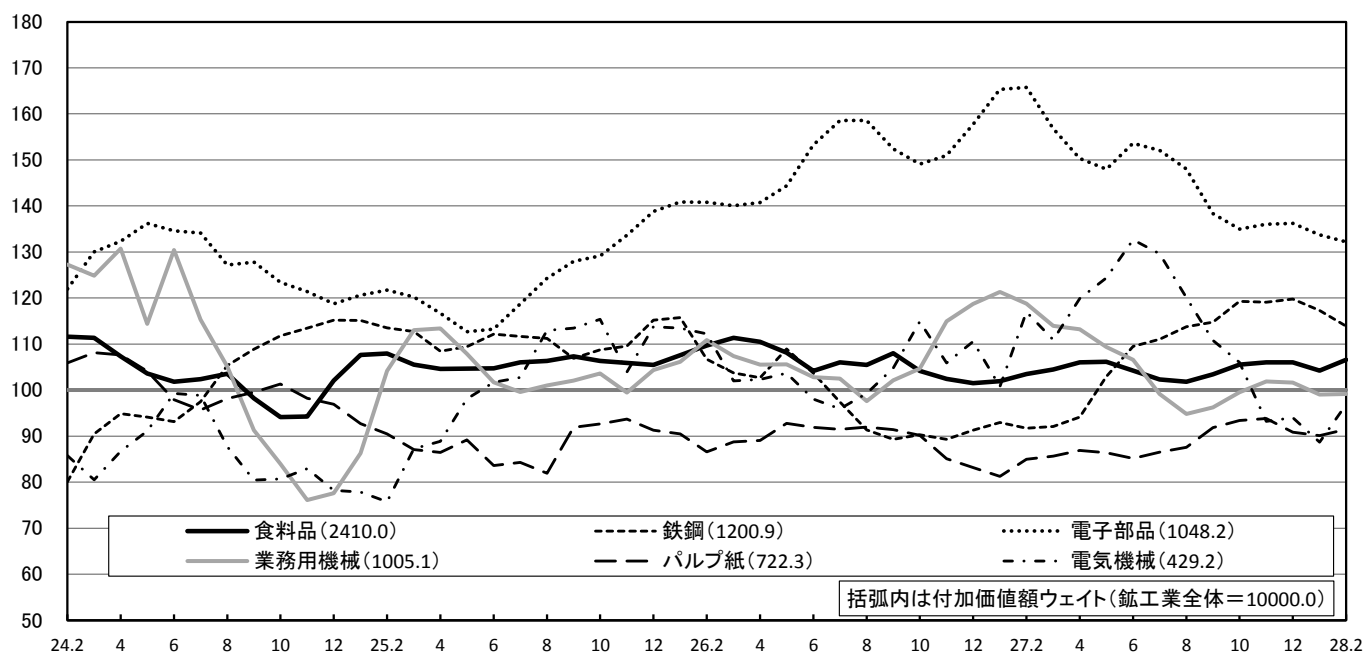


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 9.2%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
化学工業	91.7	38.0	鉄鋼業	-7.0	-19.5
食料品工業	6.3	31.9	輸送機械工業	-8.9	-12.1
生産用機械工業	73.8	19.6	石油・石炭製品工業	-67.3	-6.3
電子部品・デバイス工業	7.0	19.0	はん用機械工業	-27.1	-3.6
電気機械工業	16.2	12.5	繊維工業	-3.2	-2.9

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

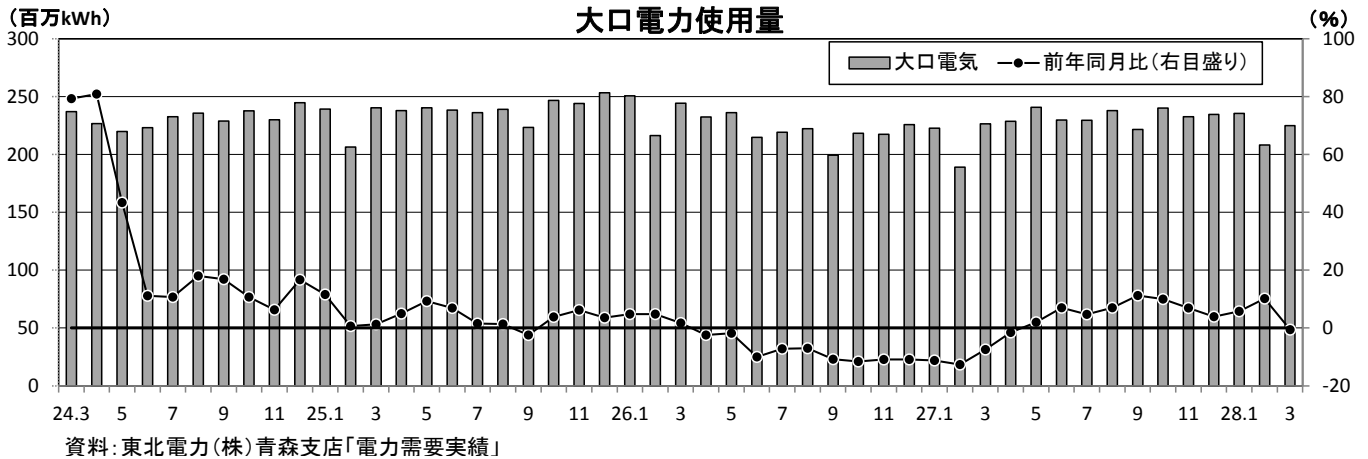
(平成22年=100)



資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-1-2) 電力使用量

平成28年3月の大口電力使用量は2億2,498万kWhで、前年同月比0.6%減となり、11カ月ぶりに前年同月を下回った。

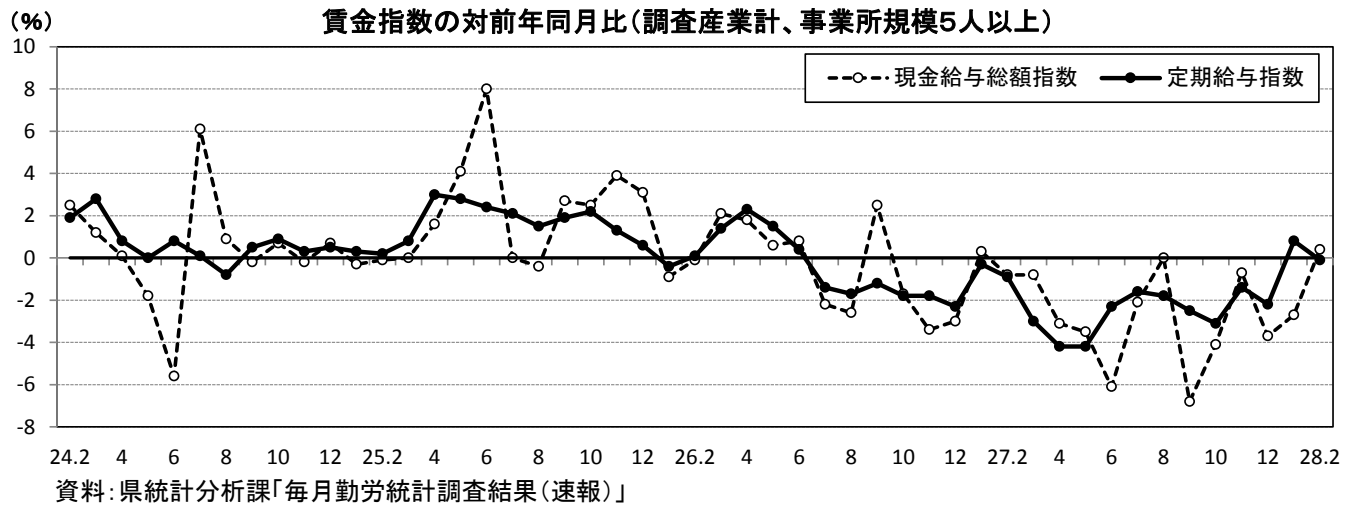


## (2-2) 雇用労働

### (2-2-1) 給与・労働時間 (毎月勤労統計調査結果)

平成28年2月の定期給与は217,186円で定期給与指数(平成22年=100)では98.7となり、前年同月比0.1%減と2カ月ぶりの減(現金給与総額219,094円、現金給与総額指数84.9、前年同月比0.4%増)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は84.0となった。

総実労働時間は151.1時間で、総実労働時間指数は97.7となり、前年同月比0.7%減と7カ月連続の減となった。このうち、所定外労働時間は10.7時間で、所定外労働時間指数は117.6となり、前年同月比7.0%減と2カ月連続の減となった。



### 賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H22=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	219,094 円	262,301 円	84.9	82.8	0.4 %	0.7 %
定期給与	217,186 円	258,570 円	98.7	98.4	-0.1 %	0.6 %
特別給与	1,908 円	3,731 円	—	—	—	20.5 %
総実労働時間	151.1 時間	143.0 時間	97.7	97.5	-0.7 %	0.4 %
所定内労働時間	140.4 時間	132.3 時間	96.5	97.0	-0.1 %	0.7 %
所定外労働時間	10.7 時間	10.7 時間	117.6	104.9	-7.0 %	-1.9 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

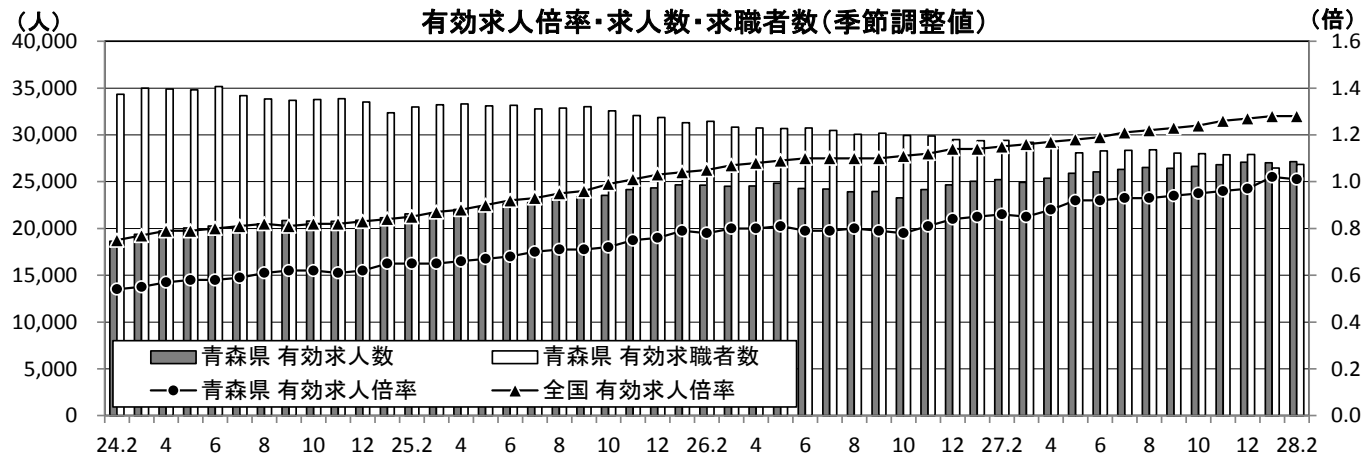
2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料: 県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

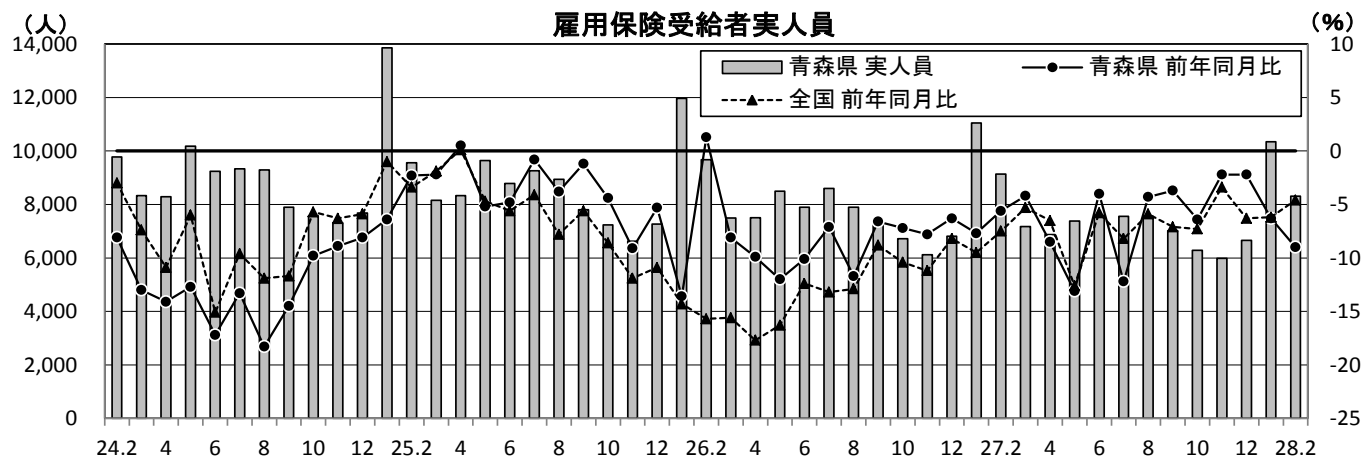
## (2-2-2) 有効求人倍率

平成28年2月の有効求人倍率（季節調整値）は1.01倍で、前月を0.01ポイント下回り、前月に次いで過去2番目の水準となった。



## (2-2-3) 雇用保険受給者数

平成28年2月の雇用保険受給者実人員は8,307人で、前年同月比9.0%減となり、24カ月連続で前年同月を下回った。



## (2-3) 物価

平成28年3月の青森市消費者物価指数(平成22年=100)は、総合指数が102.5となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.5%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は101.5となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.8%の下落となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は101.3となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ1.2%の上昇となった。

総合指数が前月と同水準となった内訳を寄与度でみると、教養娯楽(教養娯楽用品など)などの上昇、交通・通信(自動車等関係費など)などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.5%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道(他の光熱など)、交通・通信(自動車等関係費など)などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

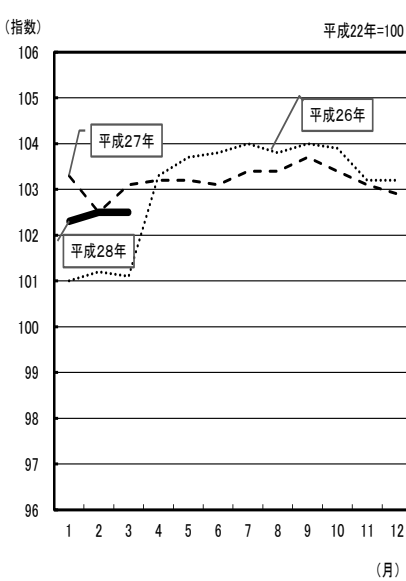


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

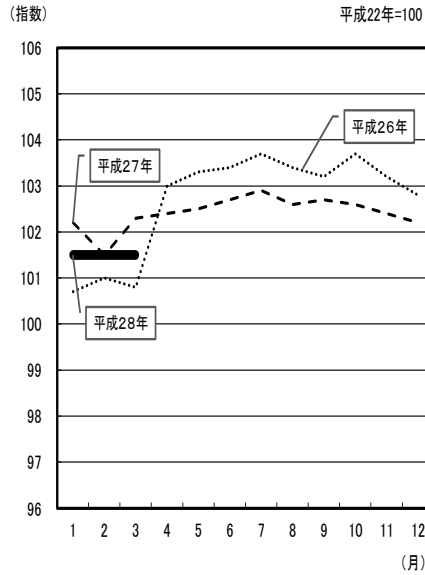
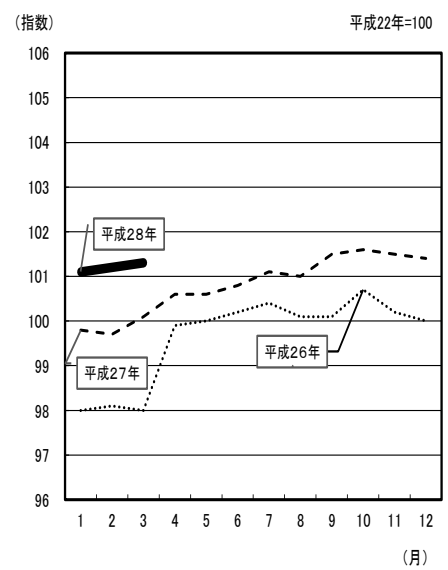


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



### 10大費目指数の動き

(平成22年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の帰属家賃を除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被及履	服及び物	保健	健康	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	102.5	101.5	103.2	101.3	107.6	124.6	100.5	100.2	92.8	103.2	100.4	100.3	100.9	98.2	110.0		
前月比(%)	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.7	0.0	▲0.3	0.5	0.2	0.0	▲0.6	0.0	0.5	▲0.1		
寄与度	—	▲0.03	▲0.02	0.08	0.03	0.04	0.01	▲0.03	0.02	0.01	0.00	▲0.07	0.00	0.05	▲0.01		
前年同月比(%)	▲0.5	▲0.8	▲0.7	1.2	2.5	3.5	1.1	▲13.8	1.8	0.0	0.6	▲2.8	0.9	3.0	1.3		
寄与度	—	▲0.72	▲0.58	0.76	0.67	0.18	0.21	▲1.52	0.06	0.00	0.03	▲0.37	0.02	0.28	0.08		

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

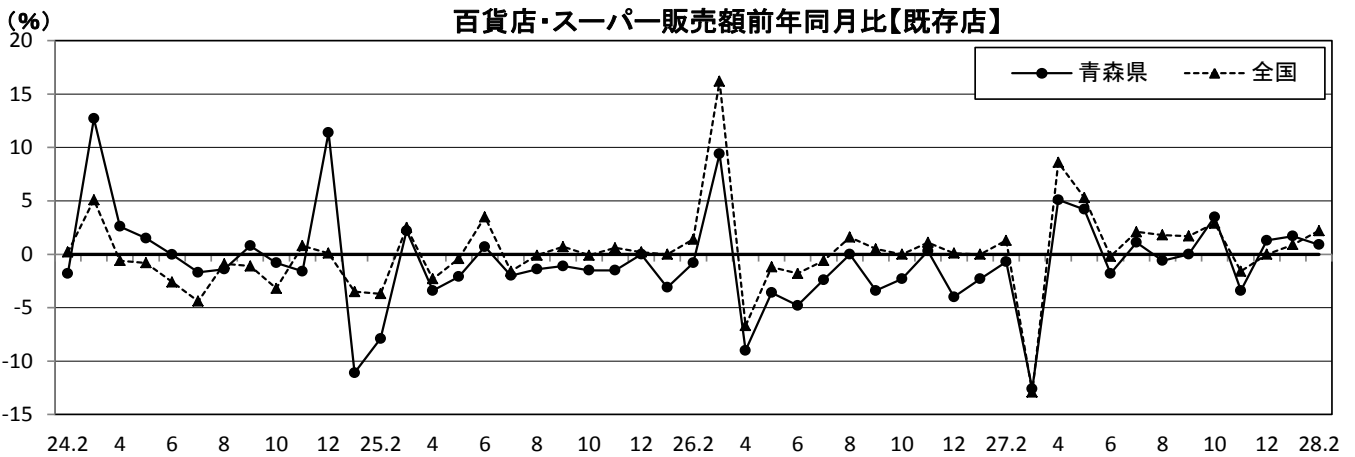
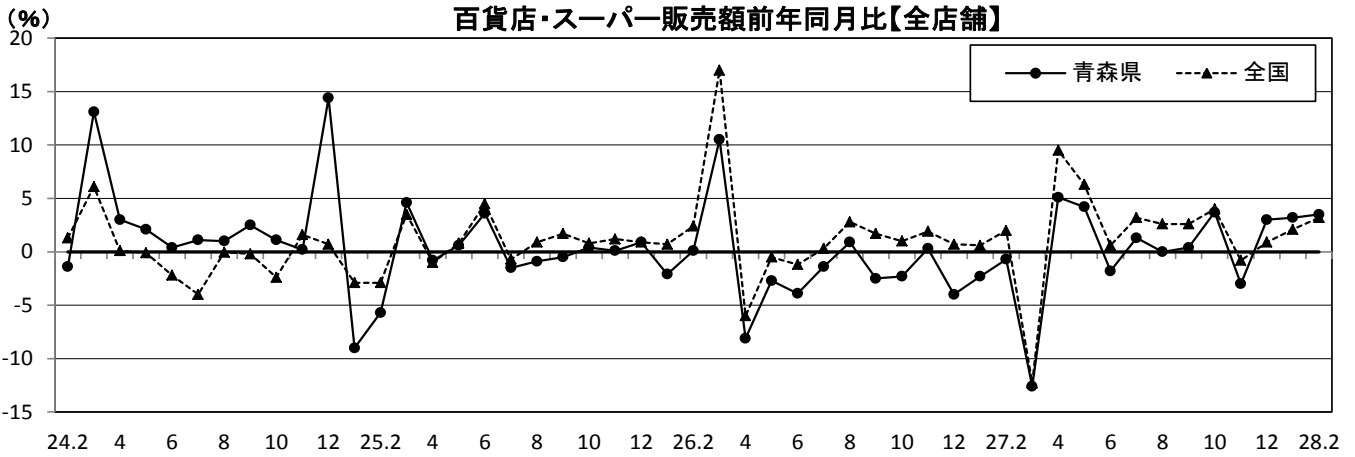
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

## (2-4) 個人消費

### (2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

平成28年2月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが128億円で前年同月比3.5%増となり、3カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比0.9%増となり、3カ月連続で前年同月を上回った。スーパーが増加したことによる。

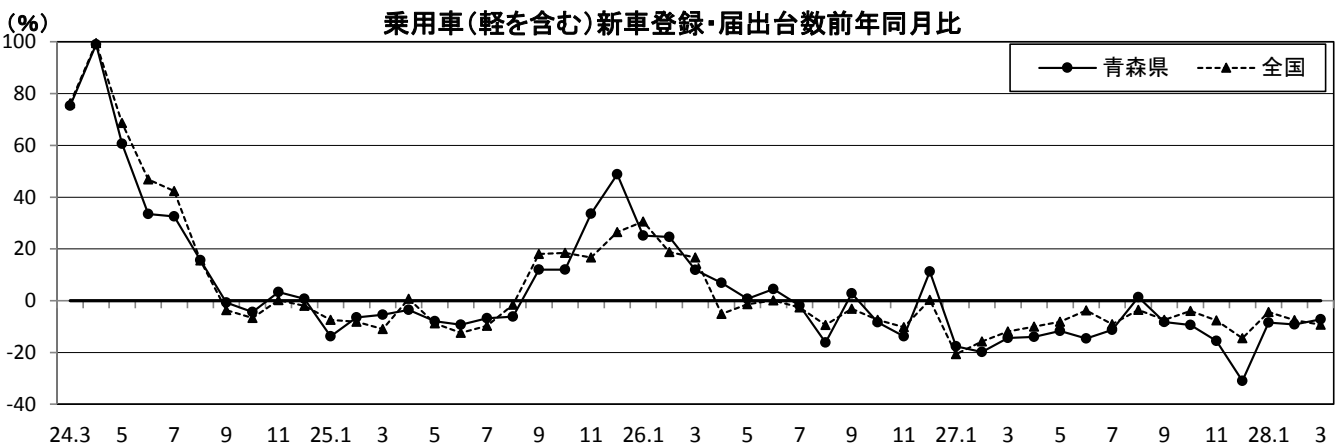


\* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。

そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

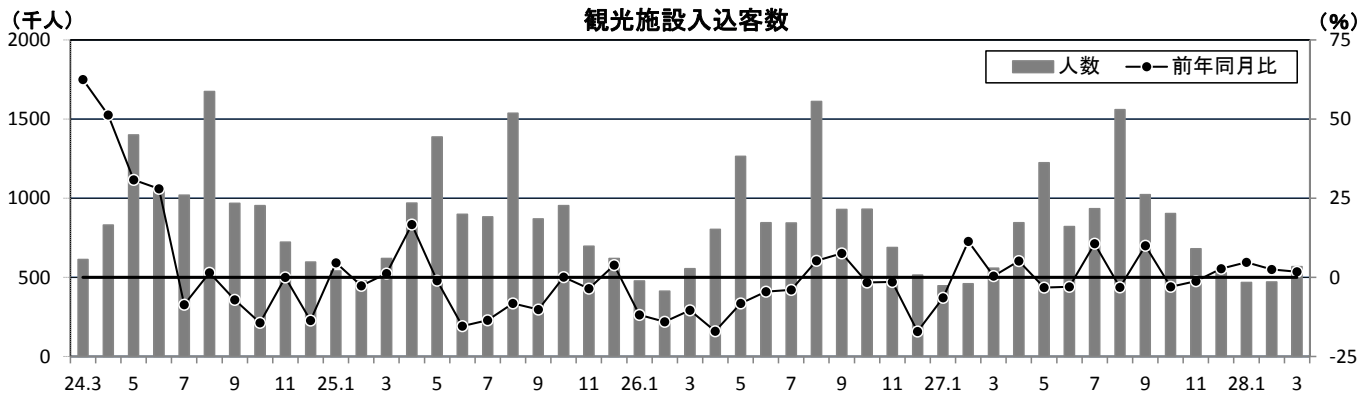
### (2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

平成28年3月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は6,056台で、前年同月比7.2%減となり、7カ月連続で前年同月を下回った。小型車、軽乗用車が減少したことによる。

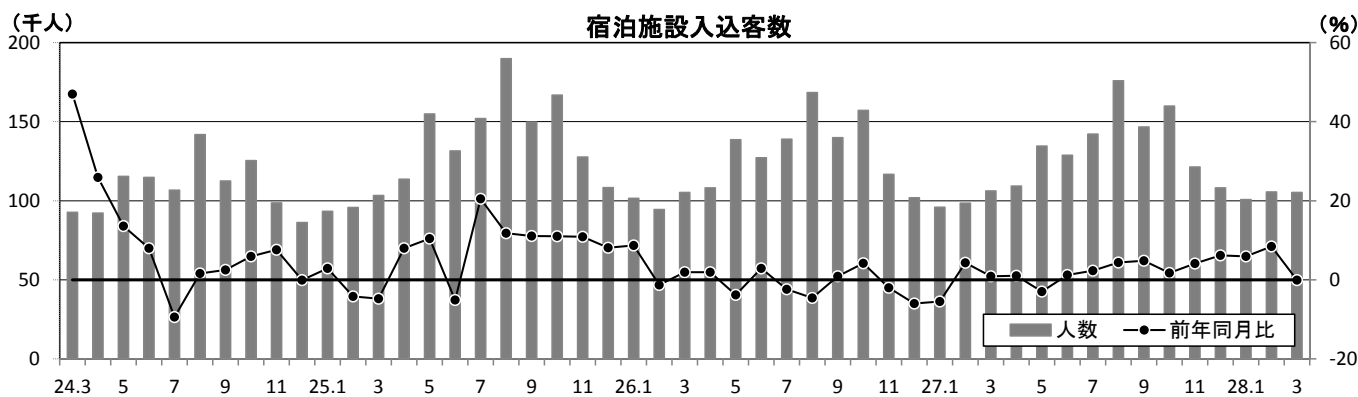


### (2-4-3) 観光入込客数

平成28年3月の観光入込客数は、主な観光施設が568千人で前年同月比1.8%増となり、4カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は105千人で前年同月比0.1%減となり、10カ月ぶりに前年同月を下回った。観光施設は青森市、十和田市等の施設で増加し、宿泊施設は青森市の施設で減少したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設（H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比）

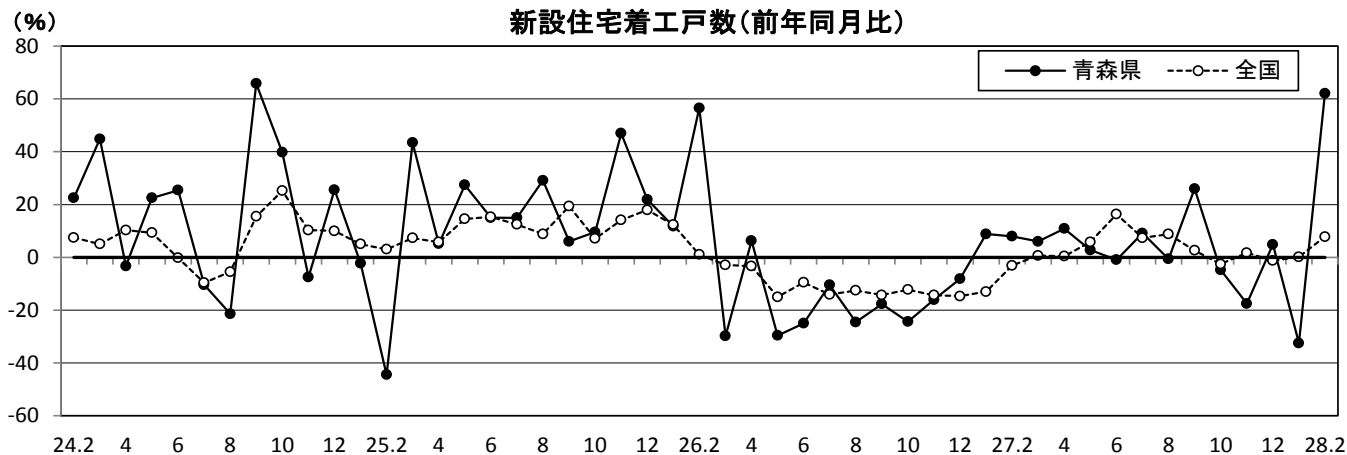


資料：県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設54施設（H24年1～3月は57施設、H24年4～9月は60施設、H24年10～11月は61施設、H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1～12月は55施設、H28年1月以降は54施設対比）

### (2-5) 建設

#### (2-5-1) 住宅建設

平成28年2月の新設住宅着工戸数は397戸で前年同月比62.0%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。持家、分譲住宅が増加したことによる。

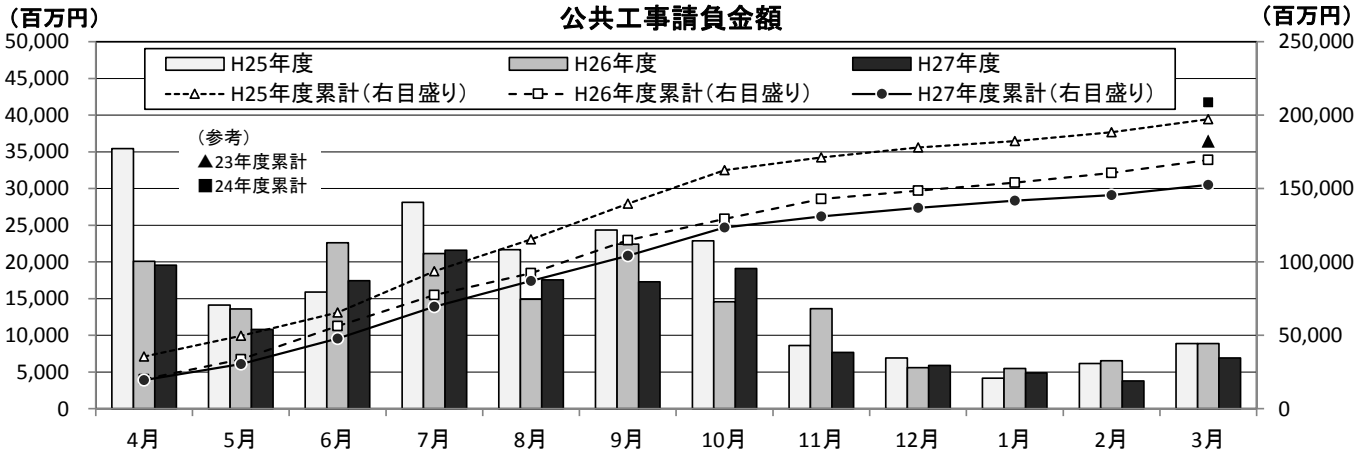


資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」



## (2-5-2) 公共事業

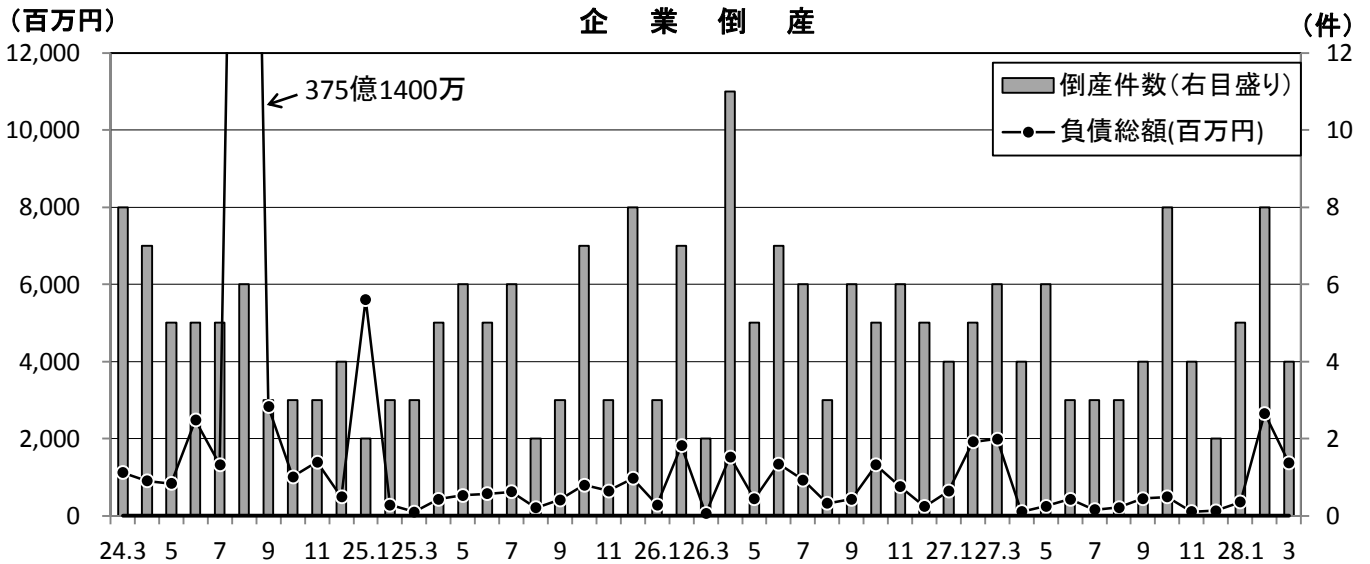
平成28年3月の公共工事請負金額は69億5000万円で前年同月比22.2%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。国、独立行政法人等で減少したことによる。また、年度累計請負金額は、1,517億2,700万円で前年同期比10.4%減となり、12カ月連続で前年同月を下回った。



資料: 東日本建設業保証(株)青森支店「青森県内の公共工事の動向」

## (2-6) 企業倒産

平成28年3月の企業倒産は、件数は4件で前年同月比33.3%減となった。負債総額は13億6,900万円で前年同月比31.4%減となった。負債総額は10億円を超える大型倒産の発生がなく、減少した。



資料: (株)東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

### (3) 青森県景気動向指数

平成28年2月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 92.3、一致指数 135.4、遅行指数 123.1 となった。

先行指数は、前月を 4.4 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した。

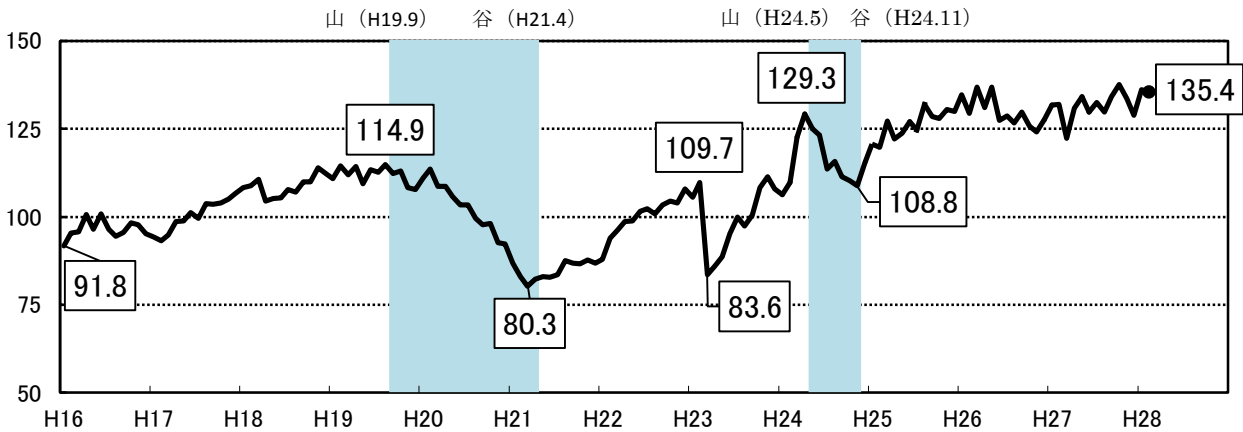
一致指数は、前月を 0.8 ポイント下回り、2 カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を 0.8 ポイント上回り、3 カ月連続で上昇した。

2月の一致指数は消費・流通関連の指標がマイナスになったことから下降した。

景気動向指数（CI一致指数）の推移

(H22=100)



※シャドー部分は本県景気の後退局面

●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
<b>先行系列</b>					
新設住宅着工床面積	3.30	2カ月ぶり	新規求人倍率（全数）	-5.49	4カ月ぶり
生産財生産指数	1.21	3カ月ぶり	企業倒産件数	-1.37	2カ月ぶり
			建築着工床面積	-1.24	2カ月連続
			日経商品指数（42種）	-0.72	3カ月ぶり
			乗用車新車登録届出数	-0.12	2カ月ぶり
			中小企業景況DI	-0.01	2カ月連続
<b>一致系列</b>					
鉱工業生産指数	2.85	2カ月連続	旅行取扱高	-2.95	3カ月ぶり
投資財生産指数	1.69	2カ月連続	有効求人倍率（全数）	-1.70	6カ月ぶり
所定外労働時間指数（全産業）	0.25	3カ月ぶり	輸入通関実績（八戸港）	-0.54	3カ月連続
			百貨店・スーパー販売額（既存店）	-0.41	3カ月ぶり
<b>遅行系列</b>					
青森市消費者物価指数（総合）	2.44	3カ月ぶり	公共工事請負金額	-1.17	2カ月連続
常用雇用指数（全産業）	0.68	7カ月連続	有効求職者数（全数）	-1.01	2カ月ぶり
りんご消費地市場価格	0.29	3カ月連続	家計消費支出（勤労者世帯：実質）	-0.44	2カ月ぶり
			県内金融機関貸出残高	-0.12	2カ月連続

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数（D I）		
先行指数	37.5%	（5カ月連続で50%を下回った）
一致指数	57.1%	（5カ月連続で50%を上回った）
遅行指数	85.7%	（2カ月ぶりに50%を上回った）

#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成28年4月期)

現状判断DIは、暖冬による季節商品の販売不振や消費行動の少ない状況等から、前期比2.7ポイント減少の45.8となった。

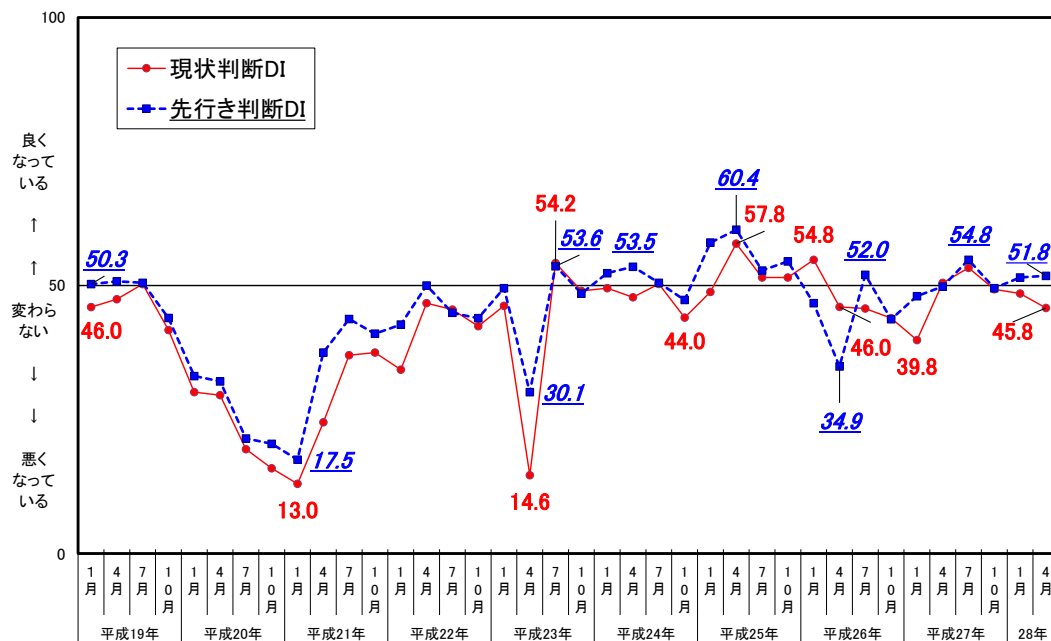
先行き判断DIは、内外情勢の先行き等に懸念がみられるものの、北海道新幹線開業による経済効果への期待等から、前期比0.3ポイント増加の51.8となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、前期調査と比べて2.7ポイント減少の45.8となり、景気の横ばいを示す50を3期連続で下回った。

3カ月後の景気先行き判断DIは、前期調査と比べて0.3ポイント増加の51.8となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で上回った。

(調査期間 平成28年4月1日～4月13日 回答率100%)

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



#### ● 3カ月前と比べた景気現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント増加、「やや良くなっている」が12.0ポイント減少、「変わらない」が9.0ポイント増加、「やや悪くなっている」が3.0ポイント増加、「悪くなっている」が1.0ポイント減少したことにより、全体では2.7ポイント減少の45.8となり、景気の横ばいを示す50を3期連続で下回った。</p> <p>判断理由では、ショッピングセンター等での人の動きの良さなどプラス面をあげる声があった一方で、暖冬による冬季商品の販売不振、食料品購入の点数減少や単価下落、旅行者数の減少、飲食店での来客数の減少といったマイナス面をあげる声があった。</p>
向	<p>地区別では、前期調査と比べて、津軽地区でポイントが増加し、下北地区で横ばい、東青、県南地区で減少した。</p>

#### ● 3カ月後の景気先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「良くなる」が1.0ポイント減少、「やや良くなる」が1.0ポイント減少、「変わらない」が5.0ポイント増加、「やや悪くなる」が2.0ポイント減少、「悪くなる」が1.0ポイント減少したことにより、全体では0.3ポイント増加の51.8となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で上回った。</p> <p>判断理由では、飲食店への来客数の減少、消費税増税や海外情勢の不透明感などによる先行き不安、企業や農家などの後継者問題、人材確保難を懸念する声があった一方で、北海道新幹線開業による観光客の増加、六魂祭や青森県・函館DCなどのイベント等による経済効果に期待するという声があった。</p>
向	<p>地区別では、前期調査と比べて、津軽、下北地区でポイントが増加し、東青、県南地区で減少した。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

### ● 3カ月前と比べた景気の現状判断理由

- ◎ 飲食店が好調。(商店街=津軽)
- 好天のせいもあり、デパート、ショッピングセンター等商店街の人の動きの良さが見受けられる。(旅行代理店=津軽)
- 雪も少なく春も早かったせいか春物商品が動いていると思う。(食料品製造=津軽)
- 来店頻度が少し遅れがちになっているように思える。(美容院=東青)
- 商品の売れ行きが良くない。(卸売業=東青)
- 当社及び同業他社の契約件数を比べても前年とあまり変わらない。(住宅建設販売=津軽)
- 売り上げ、お客様の動向、あまり変化がない。ただ年々お客様1人あたりの利用金額は減少している。(パチンコ=県南)
- 中国、ヨーロッパからの引き合いが増えている。国内は横ばいでやや低調。部品調達先も大きな変化なく、先行き不安はあるものの順調との話が多い。(電気機械製造=県南)
- 人材の確保に苦戦している。賃金等の改善をしたくても、その原資、売上まで確保できず、現状維持がやっとの企業が多い状況。派遣の問い合わせも増えているが、賃金が低水準で人材紹介に至らないケースが目立つようになった。(人材派遣=東青)
- △ ツアー参加人数及び旅行者の全体数が減少している様子がある。(旅行代理店=東青)
- △ 暖冬のため冬季商品が不振。(家電量販店=東青)
- △ 食料品の買上げ動向はよりシビアになっていると思われる。買上げ点数、単価のダウン傾向あり。生活防衛の意識が見られるように感じる。(百貨店=津軽)
- △ 公共事業が少なく、被災地の方へ出稼ぐ人が多くなっているように感じる。(ガソリンスタンド=下北)
- × 毎日多少なりと期待して頑張っていますが、景気が悪く見当がつきません。考えられないほどお客様が少ないです。(スナック=東青)

### ● 3カ月後の景気の先行き判断理由

- ◎ 今年は六魂祭などのイベントが多いので。(一般飲食店=東青)
- 購買力のある人は、相変わらず消費に回す金額が高い。(一般小売店=津軽)
- 六魂祭や青森県・函館DCなど集客力のあるイベント、キャンペーンによる経済効果。(広告・デザイン=東青)
- 新機種発売に向けて需要が増えてくるため。(電気機械製造=津軽)
- 消費税増税も先送りの状況ですし、何も起爆剤がないため。(住宅建設販売=東青)
- 売上が上向くような材料がなく、停滞しているように感じます。(商店街=東青)
- GWや弘前公園の桜まつりがあるので、一時的には良くなりますが、その後は特に変わらないと思います。(スナック=津軽)
- 地方は賃上げの波及効果も薄く、社会保障費の負担増による可処分所得の低下等の影響か、依然として購買行動が慎重となっていると思われるため。(百貨店=県南)
- 下北自体の産業などが改善していない。今のままの産業構造では良くなる要素が少ない。(スーパー=下北)
- 中国やアジアの経済情勢が大きく回復しそうにないため。引き合いは増加気味であるが、数年前の爆発的需要には程遠い。(電気機械製造=県南)
- △ 桜まつりが早咲きによる来場者減。大型観光バス、長距離バスの大幅減。消費税や海外の情勢不透明。(観光名所等=津軽)
- △ 消費税増税やいろいろな先行き不安材料があるためお客様方も慎重になっています。よほどの所得環境の改善がない限り景気が良くなるように思えません。(衣料専門店=県南)
- △ 企業や農家などの後継者問題、人材確保が非常に難しくなっており、店を閉める割合が高くなると思われる。(建設=県南)
- × 会社(職場)での飲み会が少なくなっているようです。予算も低額になっているので、客単価が下がってきています。今後はもっとお客様の数も減ると思います。(レストラン=県南)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」